



(出 石)

跡周辺は、円山川河口から

関連の深い遺跡である。遺  
約五〇〇m隔っているが、  
た。谷南側の袴狭遺跡とは  
象として全面調査を実施し  
その西側約二〇〇〇mを対  
器が出土している。今回は  
二点の木簡と五点の墨書土  
査は一九八八年にも行われ、

川  
の旧河道もしくはその支流の河道に相当するものと思われる。調

- 1 所在地 兵庫県出石町袴狭字持網
- 2 調査期間 一九九〇年(平二)一月～三月
- 3 発掘機関 兵庫県教育委員会
- 4 調査担当者 渡辺 昇・久保弘幸
- 5 遺跡の種類 祭祀遺跡
- 6 遺跡の年代 八～九世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

## 兵庫・砂入遺跡

すなわち

約二km上流になるが、標高六～八mと低く、湿地化しており、調査の結果でも常に河川の氾濫にあっていたことが窺われる。  
今回の調査では、木簡は一点だけである。また未整理段階ではあるが墨書土器も一点しか出土していない。木簡が一点のみで硯などの遺物も出土していないことは、遺跡の性格を示すものかと思われる。

今年度調査による遺構は、大別して二面あり、上層では自然流路横に祭祀に伴う道を作っている。幅三～五mの粗朶敷きの道で、道の上に人形、斎串を埋納した土坑を有している。下層では自然の流路を使って祭祀を行っており、多量の人形、馬形、斎串をはじめ刀形・刀子形・鋤形・剣形・舟形などの祭祀遺物が約二万点以上出土している。木製遺物の多さに比べて木簡が少く、出土遺構が上層の道状遺構横の自然流路であることから、今回調査した遺構に伴うものではないかもしれない。

### 8 木簡の积文・内容

(1) □右□禁□

(117)×28×3 081

上下ともに折れている断片である。文意も明確でなく、五文字の存在が明らかただけである。

(渡辺 昇)